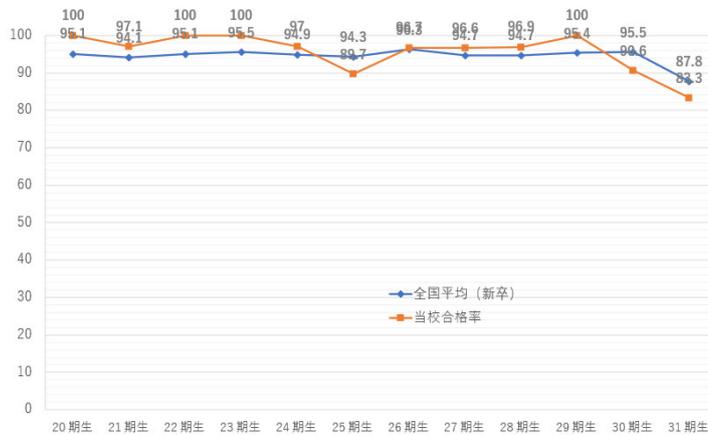


当校の看護師国家試験の結果状況



【31期生113回国家試験の6名不合格の結果から】

1. 第113回看護師国家試験の合格基準について
 必修問題及び一般問題を1問1点、状況設定問題を1問2点とし次の①②をすべて満たした者が合格

①必修問題	40点以上/49点	但し必修問題の一部を採点対象から除外された受験者にあつては左記の通り	⇒	必修問題の総得点数	必修問題の得点
★設問が不十分で正解が得られないと判断した問題が1問	→	採点対象から除外し総得点が49点		48点	39点
☆必修問題として妥当でないと判断した問題が5問	→	正解者は採点し不正解者は採点除外		47点	38点
∴学生により総得点合格点の違い。				46点	37点

②一般問題・状況設定問題 158点以上/250点
 45又は46点 36点

必修問題は難易度は難化したといわれる。正答率は、80%以下が14問/50問であり、中でも70%以下の問題が採点除外等判断の検討対象となった。過去の必修問題と設問の間方が違う問題。一般問題からの流用された問題(例年10～12問はある)。基本的な問いではあるが過去の解答に頼った学習では解けない初出問題。結果解答に迷いが生じ正答率が低かったと考える。

一般問題・状況設定問題の難易度は若干易化と言われる。形式的には事例問題の長文化一般問題に択二問題が増加。

2. 31期生の国家試験の結果について
 必修問題の平均は40点(全国42点)、一般・状況設定平均189点(全国190点)
 不合格者の点数は必修問題37点、一般状況は1名が158点以下である。最後までに迷い、解答を変更したという。ただ必修問題36点、一般状況158点で合格した学生もいる。

31期生1年次から学年進度に応じた取り組みを実施し、成績2極化による成績下位学生への取り組み、グループ間の共有・協力姿勢の強化を意識してきた。3年時になると成績順でのグループ学習や個別面談、夏期講習、模擬試験を実施。実習終了毎、夏期休暇、冬期休暇中の過去問題の実施。後期実習終了後はグループ学習にも差があった。模擬試験の結果必修問題の成績が上がり、一般問題に力を入れると必修の成績が下がって来るといふ傾向は、基本的な知識の定着がなく解説や解答を暗記してきたと考える。国家試験終了時は、必修問題40点以下が12名いるということは異例の事態である。今後はさらに過去問題を丁寧に解くことが重要である。時間配分はもとより、「基本的なことはわかっているはず」で進まず、基本的な知識から症状やメカニズムまでつながるような学生のレベルに合わせた補習講義。実習中も受け持ち対象の学習を説明することを意識したかわりを持つ。また過去問題を実施しても自分の課題から学習方法を見出すことが苦手である。タイムリーに学習の示唆をしていくことである。年間を通じて一人一人の「解ろうとする」「何とかしたいと思う」学習姿勢を維持できるよう、心理的支援も必要である。